

日本社会事業大学社会福祉学部社会事業学科&児童福祉学科第15期生

「入学50周年記念のつとい」資料集

－1971年→→→1975年→→→2021年－



本当は…

と き：2021年3月20日（土）

ところ：水交会「クラブ水交」（渋谷区神宮前）

学部15期生「入学50周年記念資料集」を発行

今から2年くらい前のことです。社大の学内学会や同窓会幹事会等の開催時期に合わせて、いつもどおりに同期生の仲間が寄り集まって、あれやこれやと話をしていました。

と、「そうだよ、21年は我々が入学して50年目の年だ。じゃあ、原宿で盛大に『50周年記念のつどい』を開かなくっちゃ」という話で盛り上がりました。

15期生はこれまでに2回の同期会を開催してきました。その都度、「これが最後」と言いながら、今度こそ「3度目の正直」同期会、という位置づけと相成った次第です。

酒の場での「決定」とは言え、その後、時間をかけながらその準備を進めてきました。

処が、です。ご承知のように、昨年からのコロナ禍の進行、です。

状況を見極めながら、どうにか開催できる方向であれやこれやと検討を加えてはみたものの、結果としては、「中止」せざるを得なくなりました。

ただ、これから先に再度、「つどい」を企画しようとしても、それがいつになるのかすら見通せない現状があります。

そこで、「つどい」に替わるものとして、「入学50周年記念資料集」を発行することとしました。

「つどい」のよびかけ人が中心となって企画を立て、同期生等に協力を依頼し、資料集を作成しました。これに関しては、15期生でもある木村同窓会副会長と同窓会事務局の横山さんにはとりわけ大変なご尽力をいただきました。本当にありがとうございます。

さて、その資料集の内容は、社大校歌、71年当時の原宿風景、同期生の近況等、恩師等からのメッセージ、当時の貴重な資料や写真等、そして社大節などから成っています。

恩師を始め、ご協力いただいたすべてのみなさんに、改めて心から感謝申し上げます。

ついては、同窓会HP用の報告としては、「資料集」の表紙とこの雑文です。

それに、以下に、資料集中の「原宿風景」を掲載しておきます。一定の年齢層以上のみなさんには「懐かしいなあ」であり、比較的若い清瀬世代のみなさんにとっては「へえ、そうなんだあ」と、いずれにしても楽しんでいただければ幸いです。

ではでは、早速、「原宿の風景」のご披露と参りましょう。

原宿周辺と杜大キャンパスの風景 in 1971

電車は、国電山手線の原宿駅にゆっくりと到着した。

ドアが開いて緑色の車両を降り、代々木側のホームの階段を下がって行く。

改札に立っている駅員に定期を見せて改札を出ると、歩行者用信号は生憎の赤。

しばし待ち、信号が青になるのを待って、道路を渡ると、そこは下り坂の「竹下通り」。

右角がレストランで、通りには幾つかの喫茶店があったり、寿司屋があったり、様々な見世が軒を連ねてはいるものの、この通りはどこにでもある月並みな商店街に過ぎない。

50年後、このあたりはウィークディでも人がごった返す超有名な通りとなつてはいるものの、1971年の今は、人もまばら状態で、このあたりをほつつき歩いている若者たちもどうやら社大生のような。

この竹下通りをまっすぐに数分進むと、明治通りに出る。

その右角が喫茶店「マロン」であり、そのお隣りあたりの奥には、女子寮生が通う銭湯があり、明治通りはそのまま渋谷へと続いている。

左手角は、のちに大きな商業ビルが建ち、その駐車場入口を巡って、住民の「建設反対運動」が起きたりもしたものだが、今はまだそれも建ってはいない。

この角を左折して、明治通りをそのまま代々木方面に進むと、東郷女子会館のお隣りに、我が社大の正門が見えてくる。

しかし、多くの社大生は、明治通りに辿り着く前に、竹下通りの脇の小道へと左折し、公衆便所の前の数段の階段を上って、東郷神社の敷地へと這入っていく。

神社の階段を横目に進むと、眼の前には東郷会館があり、ここを左折し、すぐに右折して会館の横を通り抜けると、右手はお金持ちのお嬢様たちが暮らす前出の東郷女子会館だ。

すぐに明治通りに突き当たり、左折をすると、もう社大の正門だ。

正門の右手には古びた白い彫壁がある（この彫壁は、清瀬移転時にアガペ像同様に移設する予定ではあったものの、年月が経ち過ぎていて全体的に脆くなっており、結果的に移設することができなかったという）。

厳めしい門からは、眼の前に3階建ての石造校舎を看取することができる。かつては海軍記念館だったそうで、敷地は文部省（当時）、建物は厚生省（当時）の所有だとか。

（序でながらのエピソードとして、戦時中この石造建築物の屋上に米軍は爆弾を落としたものの、建物はびくともしなかった、と言われている。真偽のほどは不明）

正面玄関の右横にはアガペの像が建っており、台座には「産声カラ灰トナリテマデ」の文字が刻まれている。

さて、開けっ放しの正面玄関の鉄扉を這入っていく。

ホールは薄暗く、正面には映画のロケにでも見えそうな豪華な階段が2階へと続いている。1階の左手は教員の研究室であり、右手は後に事務室が引っ越してきた。

石造りの重厚な階段を2階に上がれば、左手には生協の売店があり、その奥は談話室。そして反対側、右手には教室が並んでいる。

教室は3階にもあるものの、ここは通常の授業等では使われておらず、知る人ぞ知る「秘密の部屋」が幾つかあるそうだ。

さて、1階に戻り、ホールを右手に入っていくと、通路は裏玄関へと続いている。

入学時は、この右手に事務室があり、正面は入学式を行った講堂（もちろんここで、卒業式も行われた）になっており、左手には教員の研究室と、学長（当時は「学監」）室がある。

講堂は、大教室も兼用し、ホールでもあり、体育館でもあった。つまり、小さな校舎とし

ては、講堂は「多目的ホール」であったのだ。

裏玄関を出るとすぐに、地下室への階段があるものの、今は使われていない。

かつては食堂があったり、研修生用の宿泊施設になっていたと聴く。

そして、かつては海軍記念館であっただけに、その地下室には長～い地下道があって、それは明治神宮にまで続いているという噂（というよりは、伝説）が頻りであった。また現に、先輩の中には地下道をずんずんと奥まで進んでいった強者もいたという。

校舎に沿って裏手に回ると、大きな貯水槽に出喰わす。

バラ線で囲ってあって中には侵入できないようにはなっているものの、こんな汚い水槽に入ろうという剛の者はいないはずだ。

そしてその前に、木造2階建ての我らが学生会館（学館）が建っている。

この学生会館は、「渋谷区3大危険構築物の一つ」と教えられてはいるものの、他の2つが何処なのか、それは誰も知らない。

学館は、1階はサークル室と寝泊まり自由な小汚い小部屋、2階は自治会室と同じくサークル部屋がある。

のちに、学館の向かって左手、校舎側には「新学生会館」が学生自治会団交の末、100万円で建てられた。

さて、話はこの学生会館に戻る。

実は、1階の奥には「五味部屋」なるものがあるものの、ここへの行き方はごくごく一部の人々にしか知られていないという、これまた「秘密中の秘密の部屋」があるらしい。その名の通り、学生課長でもある五味百合子先生の「別荘」がここにあるのだ。

学生会館の右手には鬱蒼とした木々に向かって階段があり、その先の坂を上って行くと、グラウンドと、その前には女子寮、第1松窓寮が建っている。

松窓寮はかつては、1階が男子寮、2階が女子寮であったものの、男子寮は現在は文京区白山のサカイ伯爵邸跡に移っている。この男子寮、第2松窓寮は戦時中は右翼の道場であったとの噂しきりであり、新入生は必ず2階天井にある日本刀探しをさせられた、とか。

そうそう、学生会館の左手には、「のぞみ学園」という教育施設もあった。

兎に角、原宿にある日社大の敷地と建物はこれだけであり、徒歩5分もあれば、ゆっくりと一周することができる狭さなのだ。

原宿周辺（社大の住所は、渋谷区神宮前1丁目）は人も疎らで、明治通りもそれほど車の通行量は多くはない。

社大の前の明治通りは、左に行くと代々木方面へ、眼の前の歩道橋を渡ると明治公園・国立競技場方面へ、右に行くと渋谷方面で、表参道を左折すると青山通りへと続いている。

明治通りの前には、「長陽」というラーメン屋さんがあり、ここは社大生の行きつけだ。しかし、だ。金のない社大生にとってはあまり行くことができない「憧れのラーメン屋」で

もあった。

こんな話が残っている。長陽の定番は「ラーメンライス」、これで200円。処が、ある学生がラーメンの大盛り+小ライスが190円であることを「発見」してから、社大生はみな、「ラーメンの大盛り、半ライス、をお願いします」となった。

また、そのもう1本裏通りには飲食店が多くあり、焼き肉屋があったり、そば屋があったり、お好み屋があったりはしたものの、これまた高嶺の花の見世屋街であった。

そうそう、原宿駅の渋谷寄りの正面出口を出ると、表参道の明治通りへの反対側は、富士見通りに続いていて、その左手には代々木屋体やNHKがあり、NHK手前の公園はとても広いため、よくデモの集会場として使われていた。なお、右手側は明治神宮に続いている。

因みに、71年は「沖縄返還」運動の真っ最中であり、入学直後から「先進的な」学生の誘導により、よく集会→デモに「引き回された」学生も多い。

なおこの年の11月19日には、「核付き、基地付きのオキナワ返還」がなされたことに抗議して、労働者・学生による27万人の集会とデモが行われたのも、この代々木公園であったなあ…。そしてこの日、表参道の広い車道はフランスデモに占拠されてしまったため、自動車は歩道を走っていたのだった。

それと、原宿駅には「お召し列車専用ホーム」もある。ただ、在学の4年間で、それ列車を観ることは一度もなかったけれど…。

社大の「キャンパス」でもある明治神宮は、広大な敷地を擁しているため、ある学生は思索の散策に利用し、ある学生らは語らいの場として活用し、極々一部の学生たちにとってはデートの場ともなったらしい。

兎にも角にも、71年4月に入学した社大生たちは、75年3月には懐かしき原宿校舎を巣立っていった。このとき、某教員の指示で、男子卒業生の一部は「社大節」を唄わされた（現代では、唄うことが憚られる歌詞があった）。

斯くして、多くの学生は学び舎を後にしたわけだが、勉学熱心な一部学生だけは、76年～78年に卒業したようだ。

また、3年時編入者や、途中で雲のごとく消えてしまった仲間もいたのであった。これもまた「社大らしい」物語でもある。

そして、50年後の今日、原宿周辺で社大の姿を見い出せるものは何も残っていない…。